

外国人被災者には「やさしい日本語」で 情報を伝えるという考え方

弘前大学大学院長 佐藤和之

■適切な情報は被災者の心の負担を軽減する

災害が起きたとき、適切な情報を的確に伝えることは、被災者の心の負担を軽減します。いまの地域社会には日本人だけでなく、いろんな国からやってきた日本語のわからない人がたくさん住んでいますので、住民サービスに携わる皆さんは日頃からの問題を気にし、そういった住民とどうコミュニケーションをとるのがいいのかをいろいろと考え、実行なさっていることと思います。

災害下の外国人にとって、テレビやラジオから流れる情報、町に貼られる情報はすべて呪文となります。彼らを安全な場所に誘導し、安心できる避難生活を送ってもらうにはどうすればいいのでしょうか。

■外国人被災者への情報提供をどうするか

もちろん外国人には、各国語で情報の伝えられることが一番です。しかし実際は、日本人にあつてさえ情報は限られていますので、まして外国語で伝えることは、いろいろ考えてみましたができませんでした。

災害が起きた後に避難所へ誘導する情報や避難所で生活を始めるための情報など、刻々と変わる情報を外国語で伝えていくことはどう考えても不可能でした。たとえそれが英語だけであってもです。考えたのは、ことばや外国人と接することを専門にしている国語学者や日本語教育学者、統計学者、医療やマスコミ、行政、NPOに携わる者たちです。理由はこうです。いろんな部署から出される情報は日本語なので、それを翻訳し終える頃には次の新しい情報に替わってしまっているためです。

そこで私たちは、緊急性の高い情報を買入れ物をしたりバスに乗ったりするくらいの日本語(日本語能力3級程度)で伝えたらどうかと考えました。日本語能力3級程度とは、小学校の2・3年生の国語の教科書に書かれているような語や文の長さのことです。この日本語を私たちは「やさしい日本語」と呼ぶことにしました。外国人といっても日本に住んでいる人たちですから、この程度の日本語なら聞き(読み)とれるはずですよ。

「津波、高い波について、お知らせします。
市、市の海に、津波が、来ます。津波は、とても、高い波です。海の近くは、危ないです。すぐに、海から遠い、高い、ところへ、

行ってください。」のような言い方です。災害時の情報をこのくらいの日本語で受け取れるなら、外国籍住民であっても安心して避難できるのではないのでしょうか。

「やさしい日本語」についてまとめます。

日本語に不慣れな外国人が聞いても理解できる表現で、発災時の大切な情報が伝わらず、被災者が二重に被災することを防ぐために作られた表現のこと。ラジオや有線放送、テレビの字幕スーパー、掲示物などに使うことを目的とする。情報は、阪神・淡路大震災、宮城県北地震、新潟県中越地震のときに、実際に被災者へ伝えられたものに基づく。

■「やさしい日本語」の安全性と効果について

この「やさしい日本語」を行政や消防、救急医療、NPOの皆さんに安心して使ってもらえるように実験しました。世界各国からの留学生に協力してもらい、普通の日本語(災害時に市町村の広報や報道で使われる日本語)のときよりもうまく伝わるかを確かめました。実験の結果、普通の日本語でうまく行動できた人は60%でしたが、「やさしい日本語」だと83%になりました。また日本人の小学校低学年の児童にも同じ実験をしたところ、うまく行動できた児童は22%から87%に増え、約4倍もの効果がありました。

この研究は弘前大学と災害が起こったときの外国人のための「やさしい日本語」研究会が民学官NPOの協働で行っています。

研究分担者の中には医師や消防職員もいて、いま彼らは「防ぎ得た死

(PreventableDeath)」を減らそうと、「やさしい日本語」を使った救急用の問診票(ブルータグと呼んでいます)を作っています。災害が起きたときに、被災者の傷病程度を的確に判断・分類し、適切な治療が受けられる環境を作るのが目的です。この研究では弘前地区消防事務組合の協力を得、「やさしい日本語」によるブルータグを実際の救急現場で使うことにしています。医学的な実効性や簡便性、有効性の効果などを確かめるためです。

■外国人へは外国語でという考え方からの解放

さて、一見万能そうな「やさしい日本語」ですが、私たちが想定している最も効果的な時間は発災からの72時間です。救急関係者がよく言うGolden72hoursと合致します。どうして72時間なのかや「やさしい日本語」の詳しい情報は下記ページにアクセスしてみてください。<http://human.cc.birosaki-u.ac.jp/kokugo/EJ1a.htm>

たとえ事前にたくさんの外国語で文案を用意していても、それを伝える側が外国語で書かれた文とその時々で変わる災害情報との整合性を確認できない限り、外国語で情報を伝えることはできません。ですから、行政に携わる皆さんは外国人には外国語でいう呪縛的言語観から解放される必要があります。外国語支援を専門にするボランティアが被災地にやってくるまでは、「やさしい日本語」での情報提供以外は考えられないのです。

繰り返しになりますが、適切な情報は被

災者の心の負担を軽減します。行政にとっても被災者にとっても「やさしい日本語」を使うことは間違いなく効果があることの研

究を今後も続けていきます。

(さとうかずゆき・社会言語学)